

「震災・復興記録集」を私たちの手でつくりましょう!

震災・復興記録集づくりニュース

□ 第 1 号 □
平成25年11月発行

10月29日(火)に、農村環境改善センターで第1回記録集づくりワークショップを開催しました。その内容の一部を紹介します。

★第1回ワークショップの内容(平成25年10月29日)

- 新地町では、地震や津波による甚大な被害を忘れることなく、未来へ向けた復興事業を進めていくため、震災の教訓と未来への希望としての震災・復興記録集を作成します。
- 記録集の作成にあたって、町民のみなさんから広くご意見をいただくため、ワークショップを開催しました。
- 今回のワークショップでは、50年後に思いを馳せて、きっと今よりも良くなっている未来の自分や子孫、町の住民に語る材料などについて、皆さんと話し合いをしました。

■ワークショップの流れ

(1) 役場の方からのあいさつやこの集まりについての説明を行いました。



顔の見える、みなさんのための記録集を作成します
企画振興課長あいさつ

(2) グループに分かれて、震災から今までに感じたことなど、調査票に記入しました。



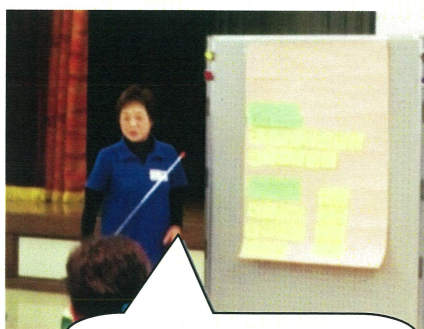
かわいらしい参加者!
各自調査票に記入

(3) 50年後に残したいことを中心に、グループでお話ししました。



皆さん真剣です!
グループで話し合い

(4) 最後にグループを代表してお一人に、話し合いの内容を発表していただきました。



グループ①
船を沖に出していた方もいました



グループ②
震災後、仲間が増えた



グループ③
正確な情報が必要

話し合いの内容の詳細→

■グループでの話し合いの内容

グループ①

女性の意見が活発な7人(男性2人、女性5人)のグループ。

- ボランティアもたくさん訪れてくださり「人の縁」を感じた
- いつかやろうと思っていたことも、今すぐ、進んで行動するようになった
- 海から山へ向かう広い避難路が欲しい
- 携帯の充電器、調味料、灯油、水、電気がなくて困った
- 現金は大事だけど、タンス貯金はだめ
- また家族ひとつになつて暮らしたい

なんにも、いらない
生きていれば、それでじゅうぶんだ



ごく普通の人の経験をインタビューして、残したい



グループ②

双葉町から新地にいらっしゃった方を含む7人(男性5人、女性2人)のグループ。

- とにかく落ち着くことが大事・冷静に
- 自然と仲良くする(自然の変異によって、災害に気づくことができる)
- ふだんから近所づきあいを大事に
- 身の安全は自分で守る
- ボランティアがありがたかった
- 初めての避難所生活は困難が多かった
- 水・食料は備蓄、ガソリンは満タンに
- 貴重品はひとまとめにしておく

グループ③

震災時の話を中心に話し合った6人(男性3人、女性3人)のグループ。

- 新地は大きな津波が来たことがなかったので、津波の力、水の勢いの怖さを知った
- 震災が夜起こっていたら、もっとたいへんだった
- 山道で避難できたので、日頃から地域をよく知っていることが重要
- 避難時には、情報や防寒対策が重要
- 家族で避難場所を話し合ったり、車に非常持ち出し袋を積んでおく等備えが必要

新地の海がやっと少し元通りになってきた!



● 次回は1月下旬～2月に開催し、記録集の素案などを確認していただこうと思っています。



【このニュースに関するお問い合わせはこちらへお願いします】
新地町企画振興課 TEL:62-2112